

10月28日(土)・大会1日目 11:40~12:40 (会場:F401) (60分)

●ランチョン・ミーティングI

テーマ:『経営学の危機』を超えて<1>
「ワクワクする研究を目指して」

◎佐藤 郁哉(同志社大学 商学部 教授)

*詳しくは、大会専用 WEB サイトの特別ページをご覧ください。

◎セッション・リーダー

[概要]

やさしくて面白いけれども一方ではすこぶる真面目でありかつ深く、しかも愉快きわまりなくて思わずワクワクしてしまうような組織研究*——このような文献が稀になってしまってから久しいようにも思える。

この点に関連して、今回の講演で言及する 2 点の翻訳書(下記参照)の 1 つでアルヴェッソンとサンドバーグは、次のように指摘している——「組織研究について言えば、1970 年代, 1980 年代, ないし 1990 年代初頭に刊行されて広く読まれ、また尊敬の対象であった一連の研究モノグラフと同じ程度の影響力と重要性がある書物が刊行されることはあるが、多くは滅多に無い」。修辞的效果を意図した極論という面もあるのだろうが、一面の真理を突いているという気がしてならない。

本講演では、以上のような点も含めて、次の 2 つの問い合わせを中心に議論を深めていきたい。

- 「ワクワク」するようなエキサイティングで面白い(interesting)研究とはどのようなものか？
- 組織研究に限らず社会科学系の研究の世界および大学が陥っている閉塞状況の背景について解明し、またそれを打破していくためには、どのようにしたら良いか？

*「やさしくて～」は、よく知られた井上ひさしの座右の銘のもじり。

デニス・トウーリッシュ(佐藤郁哉訳)(2022)『経営学の危機』白桃書房

マツツ・アルヴェッソン&ヨルゲン・サンドバーグ(佐藤郁哉訳)(2023)『リサーチ・クエスチョンの作り方と育て方』白桃書房